

工事が目立った。

計画期間を7年延長し、事業費が65%増の44億円となっている沼津市の西浦みかん東部生産基盤整備事業について、県建設政策課の担当者は「コスト管理して設計している。現時点で予算の増額は考えていない」と説明した。浜松市の馬込川に水門を設ける地震・高潮対策事業に関し、委員から同市や企業からの寄付金を活用して整備していることや、水門による効果を地元へ積極的に周知するよう求める意見があった。事後評価対象になった磐田市の天竜川下流のかんがい排水事業について、現場周辺にある世界かんがい施設遺産の「寺谷用水」の保全を要望する意見もあった。

同委員会は11月の次回会合で意見書を取りまとめ、川勝平太知事に提出する。知事は来年1月ごろ、事業の対応方針を決定する。

32事業の効果 透明性を審議

県事業評価監視委

県はこのほど、公共事業の効果や透明性を検証する県事業評価監視委員会(委員長・加藤裕治静岡文化芸術大学教授)を県庁で開き、道路改良や地震・高潮対策など32事業について審議した。委員は事業効果を認め、いずれも「継続」や「改善の必要なし」との方針で一致した。

審議の内訳は、事業着手や前回の評価から5年が経過した「再評価対象」が26件、終了から5年たった一定規模以上の「事後評価対象」が6件。再評価対象事業は資材価格の高騰や、軟弱地盤の判明に伴う工法変更などで事業費が増加した